

2018年10月18日

各位

本店所在地	東京都千代田区麹町二丁目1番地
会社名	そーせいグループ株式会社 (コード番号 4565 東証マザーズ)
代表者	代表執行役社長 CEO ピーター・ベインズ
問い合わせ先	コーポレートコミュニケーション部 西下進一朗、岡田優
電話番号	03-5210-3290 (代表)

MiNA (Holdings) 社に対する株式追加取得の オプション権不行使の決定に関するお知らせ

当社は、2018年10月16日開催の取締役会において、RNA活性化治療のパイオニアである英国のMiNA Therapeutics Limitedの持株会社であるMiNA (Holdings) Limited (MiNA社)の株式追加取得の独占的オプション権を行使しないことを決議しましたので、お知らせいたします。

当社の今般の決定は、(1) MiNA Therapeutics Limitedが肝細胞がんを対象に開発したMTL-CEPBAの第I/IIa相臨床試験(OUTREACH)の中間データを綿密に分析した評価結果並びに(2)提携および自社開発によるGタンパク質共役受容体(GPCR)を標的とした候補薬ポートフォリオにおける資源配分の優先順位についての判断に基づくものです。

当社チーフR&Dオフィサーのマルコム・ウィアーは次のように述べています。「当社のMiNA社に対する戦略的投資は、我々のパイプラインを強化させるため、新規技術基盤提供における早期のオプションを提供してくれました。中間臨床データにおける興味深いいくつかの所見、およびその後観察されたMTL-CEBPAと他のがん療法の併用の可能性は認められましたが、全体としてこれらのデータは独占的オプション権の行使を正当化するものではありませんでした。MiNA社は、これらの所見の調査に最大限の努力を行い、肝疾患の分野における世界有数の企業であるBoehringer Ingelheim社との複数の標的についてのパートナーシップを継続していきます。MiNA社による新規RNA活性化アプローチの進展を心強く思うと同時に、重要な少数株主として引き続き同社を支持していきます。」

MiNA社に対する当社の25.6%の持分に関連する28百万ポンド(約42億円)の価値につきましては、当社会計監査人によるレビューと並行して、当社でもレビューが行われ、最終的な結論は2018年11月8日提出予定の第2四半期報告書にて開示されます。MiNA社は引き続き当社の関連会社であり、当社は、将来MiNA社の価値が増加した場合に利益を得ることができます。一方、MiNA社の株式追加取得の独占的オプション権を行使しないことにより同オプション権が失効したことに伴い、同オプション権に関連する簿価7百万ポンド(約10億円)は全額評価減されました。

以上

そせいグループについて

そせいグループは、G たんぱく質共役受容体（GPCR）をターゲットとした独自の StaR[®]技術並びに構造ベース創薬技術から生み出される新薬のデザイン・研究開発にフォーカスした、国際的なバイオ医薬品企業です。当社は提携あるいは自社開発により中枢神経系疾患、がん、代謝疾患、その他希少疾患など複数の疾患領域において、幅広いパイプラインの構築に取り組んでいます。現在進行中の開発プログラムには、日本国内における DLB を対象とした自社開発候補薬の第Ⅱ相臨床試験に加え、Allergan 社との提携による AD の対処療法を目的とした候補薬や、AstraZeneca 社との提携によるがん治療を目的としたがん免疫療法の開発も含まれています。その他に、これまで Novartis 社、Pfizer 社、第一三共株式会社、ペプチドリーム社、Kymab 社、MorphoSys 社等と提携しています。日本に本社を置き、英国およびスイスに研究開発施設を有しています。